



会誌 SATSUMA (左) と連絡誌アルボ (右)

5. メーリングリスト (鹿昆 ML)

会員により投稿され、登録者全員に配信されている。ここでは会務連絡の他、身近な昆虫の話題を共有している。会員のみしか投稿・受信できないが、速報性の高い有効な情報交換の手段として利用されている。

6. HP

鹿昆では今年も HP を作成。下記のアドレスか、検索サイトで「鹿児島昆虫同好会」をキーワードで検索できる。

<http://www.synapse.ne.jp/~viola-kk/>

会員外の方も例会に参加して頂けるように、例会や大会の案内など掲載している。

7. 調査会・採集会

アサギマダラマーキング会 (千貫平, 南大隅町)、灯火採集会 (垂水市) は、全て天候不良により中止となった。ウスイロオナガシジミの調査会 (湧水町) は 6 回実施した。

「大隅半島での昆虫に関する活動を活性化させよう」という想いとは裏腹に、2016 年は計画していた行事が天候不良で全て中止となった。2017 年は我々が大隅半島を会場にするだけでなく、大隅半島在住の会員にも運営を手伝ってもらえるように、幹事に若手 2 名を起用した。今後盛り上げていけるように、手立てを講じていきたい。

8. 2017 年の予定

会誌 SATSUMA は例年通り 2 回、連絡誌アル

ボは 4 回発行を予定。

大会は 2017 年 11 月 18 日 (土)、鹿児島市環境未来館にて行う予定で、例会も年 8 回計画している。例会や大会は会員外も気軽に参加できるので、場所や時間など詳細は本会 HP、あるいは庶務幹事：金井まで問い合わせ・ご確認頂きたい。入会をご希望の方は、金井までご連絡ください。詳細をお知らせします。なお、年会費 3,000 円となっています。

本会は小学生から会社員、主婦、学者など多様な会員が集まり、和やかに活動しています。採集して標本にして昆虫の多様性を楽しんでいる会員、虫を写真に撮って写真展に出品している会員、実験観察や調査により新しい知見を得て、それを記録として発表している会員など、活動の内容は様々ですが、どの会員も情報を共有しようことなどでお互いを高めあっています。これらを通して、共通の目標：鹿児島島の昆虫を調べて記録に残そうと活動を重ねて来ています。これからも本会は、生物多様性の維持や保全、将来に向けて、現在の虫たちの記録を蓄積することなどを通して、「鹿児島島の自然を解明していくこと」の一助となることを信じて活動を続けていきたいと思っています。虫に興味のある方の参加を待っています。

(金井賢一 〒 892-0853 鹿児島市城山町 1-1
鹿児島県立博物館 Tel: 099-223-6050; e-mail:
viola-kk@po.synapse.ne.jp)

Nature of Kagoshima 43: 487-490

鹿児島大学総合研究博物館

2016 年の活動報告

■特別公開「琉球列島最古のハブ属の化石」 1 月 27 日～ 8 月 23 日

沖縄本島で発見したハブ属の脊椎化石を展示しました。

■第 21 回研究交流会「海外遺伝資源に係る生物

特別公開 1月27日(水)～4月9日(土)

沖縄本島で
150万年前の地層から発見された
琉球列島最古のハブ属の化石




鹿児島大学総合研究博物館

多様性条約／名古屋議定書セミナー」4月14日
鈴木睦昭・榎本美千子（国立遺伝学研究所
ABS 学術チーム）、本村浩之（鹿児島大学） 海外
遺伝資源に関する名古屋議定書の最新情報の提
供を受け、ABS 対策の現状と問題提起を行いました。

■第16回公開講座「超巨大火山、スーパーボル
ケーノを作ろう！」7月23日 林 信太郎（秋
田大学）

身近な材料を使った実験を通して、スーパー
ボルケーノがどのようにしてできるのかを楽しみ
ながら学びました。

■第16回自然体験ツアー「南限ブナ林の植物観
察」鈴木英治（鹿児島大学）

標高1067mの山頂近くまで車で行ける紫尾山
は、北日本に多いブナ林の南限地帯にあります。
そこにどのような植物が分布しているか観察しま
した。

■第32回市民講座「琉球列島のへび類の起源」
8月27日 池田忠広（兵庫県立人と自然の博物館）

鹿児島大学総合研究博物館
第21回研究交流会

2016年4月14日(木)
16:30～

【会場】鹿児島大学元キャンパス
理学部1号館2階大会議室

**海外遺伝資源に係る
生物多様性条約／名古屋議定書セミナー**

【プログラム】16:30～17:30
「海外遺伝資源に関する名古屋議定書の最新情報の提供」
鹿児島大学総合研究博物館 榎本 美千子 鈴木 睦昭

17:30～17:40
「ABS 学術チームの最新活動と活動紹介」
国立遺伝学研究所 ABS 学術チーム 榎本 美千子
*会場：鹿児島大学元キャンパス理学部1号館2階 大会議室 2階 理学部1号館2階大会議室

17:40～17:50
「海外遺伝資源に係る名古屋議定書の現状と問題提起」
鹿児島大学総合研究博物館 榎本 美千子 浩之

17:50～ 懇話会

【対 象】鹿児島大学総合研究博物館（本館）と鹿児島大学元キャンパス（元理学部）の両方の関係者および
関係者の方、研究者の方、学生の方等。セミナーの開催を希望されているご参加、参加費は、参加費は、
1000円（税別）です。

【備 考】研究やイベントの開催によって発生する費用、印刷、資料費が別途請求される場合があります。
1000円（税別）の参加費がかかります。参加費は、1000円（税別）です。1000円（税別）の参加費がかかります。
1000円（税別）の参加費がかかります。参加費は、1000円（税別）です。1000円（税別）の参加費がかかります。

【問合せ】鹿児島大学総合研究博物館
〒900-0065 鹿児島市元元1-21-30 TEL:099-285-8141 Fax:099-285-7267

第16回 鹿児島大学総合研究博物館 公開講座

夏休み特別企画

**超巨大火山、
スーパーボルケーノを作ろう！**

「世界一おいしい火山のスーパーボルケーノ作ろう！」(小嶋書店刊)の著
者が実演する入道火山砕火実験、ココアカルデラ実験、溶岩実験、スポンジ実
験など、身近な材料を使った実験を通して、スーパーボルケーノがどのよう
にできるのかを楽しみながら学びます。

鹿児島大学の快活カルアラもスーパーボルケーノのひとりです。カルアラを創成
した巨大噴火のなぞもわかるかもかもしれません。

【日 時】2016年7月23日(土) 12:00～15:00
【場 所】鹿児島大学元キャンパス共通教育棟2号館1階311号室
【対象者】火山に興味のある方、とくに子供たち、親子連れは大歓迎です。
【参 考】入場料無料、予約不要、定員(200名)を超え次第締め切ります。
【アクセス】当館「工学部前」下車、徒歩5分。
車の方は中央図書館前ゲートへお越し下さい。参加者がゲートを開けます。

【講 師】林 信太郎 (信 平 信 太郎 氏)
秋田大学教育学部教育学部、山形大学の教授、
専門は火山地質学。「マウンテン・ブナ」による山岳地
質学などの研究発表で2015年度日本山岳学会賞受賞。
【問合せ】鹿児島大学総合研究博物館
電話：099-285-8141 FAX：099-285-7267
E-mail: info@kagushimusem.jp

化石から読み取れる「琉球列島のへびの起源」
について聴きました。

■特別公開「琉球列島最古のハブ化石」と「アマ

「ミノクロウサギの歯の化石」 8月27日～9月25日

市民講座「琉球列島のへび類の起源」と同時開催企画として展示しました。

■第22回研究交流会「先史時代の奄美に鉄器を伝えた種子島人のはなし」10月15日 文字のない先史時代に九州本土、種子島、奄美の間を人びとはどのように交流し、どう影響を与えあったのか、考古学で読み解きました。

■第16回特別展「水から陸へーカニたちの多彩な生活」10月20日～11月16日

カニ類は干潟や土手に巣穴を掘ったり、瓦礫やサンゴや岩場の隙間、時には他の生物の体内などに居るなど、生活様式は様々です。カニたちの多彩な生活様式を写真で示し、それが彼らの生き方とどのように関連しているかを解説しました。

■第30回市民講座「カニたちは、何故陸にあがったのか!」10月29日 鈴木廣志(鹿児島大学) 本来水中で鰓呼吸するカニが陸上に生活の場を移したのは何故か? またそれを可能にしたのは何か? カニ類の多彩な生活様式を示しながら、その理由について考えました。

■第31回市民講座「地震の化石、断層岩の世界」2月4日 川端訓代(サイエンスライター) 地震が起こった時、地下の断層ではどのような事が起きているのかを実際の断層岩から紹介するとともに地震断層研究の最新の成果についても紹介しました。

■特別公開 11/11-12/10「河東碧梧桐の直筆俳句—旧制鹿児島高等農林学校 指宿植物試験場の芳名

鹿児島大学総合研究博物館 第16回 特別展

水から陸へ—カニたちの多彩な生活

Deep Sea to Inland, Various Life Style of Crabs

闊呼吸をするカニたちは、なぜ深海から陸へと上がったのか？
それを可能にしたものは？
彼らの多彩な生活を通してその謎に迫る！

【日時】平成28年 10月29日(土)11月18日(日) 10:00～17:00
休館日：10月30日(日)11月6日(日)11日(日)12日(日)

【場所】鹿児島大学都元キャンパス
中央図書館ギャラリー「アトリウム」
入場無料

特別展関連企画
がこしま水族館共催
第30回 市民講座
「カニたちはなぜ陸にあがったのか？」

【講師】鈴木 真志 (鹿児島大学名誉教授)
【日時】平成28年10月29日(土)11:30～13:30
【会場】がこしま水族館1階レクチャールーム
観覧料無料 ※入場人数に限りがあります

鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0055 鹿児島県鹿児島市都元1-1
TEL: 099-2385-7080 FAX: 099-2385-7082
E-mail: info@kaum.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学総合研究博物館・がこしま水族館共催事業
鹿児島大学総合研究博物館 第16回特別展

水から陸へ—カニたちの多彩な生活」関連講演会、第30回市民講座

「カニたちは、なぜ陸にあがったのか？」

【日時】平成28年 10月29日(土) 13:30～15:00
【場所】がこしま水族館 1階レクチャールーム

【講 題】鈴木 真志 (鹿児島大学名誉教授)
【対 象】どなたでも
【講 義】開講料なし(入場料は本館が定額です)※入場人数に限りがあります
【内 容】本館が学芸員が担当する「水から陸へ」展にちなみ、カニの多彩な生活を通してその謎に迫るというテーマで、カニの進化の歴史や、カニが陸に上がった理由、カニの生態や生活史についてお話をします。
【定 員】先着50人

鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0055 鹿児島県鹿児島市都元1-1
TEL: 099-2385-7080 FAX: 099-2385-7082
E-mail: info@kaum.kagoshima-u.ac.jp

「アトリウム」がこしま水族館
〒890-0055 鹿児島県鹿児島市都元1-1
TEL: 099-2385-7080 FAX: 099-2385-7082
E-mail: info@kaum.kagoshima-u.ac.jp

第31回 鹿児島大学総合研究博物館 市民講座

地震の化石、断層岩の世界

地震は地下の岩石が破断するとき発生するのですが、そのプロセスは破断した岩石、すなわち「断層岩」から読み解くことができます。本講座では、「断層岩」から読み解いた具体的な事例と、その結果わかってきた地震の発生プロセスを紹介いたします。

東日本大震災以降、日本列島やその近海で地震が頻発しており、地殻の活動は徐々に活発化する形で活発化しています。目にはみえないこの現象を理解する良い機会です。日頃抱いている地震に関する疑問も解けるかもしれません。

【日 時】2017年2月4日(土) 13:30～15:00
【場 所】鹿児島大学都元キャンパス 理学部2号館2階214号室
【対象者】地震に関心のある方ほとんどなたまで大歓迎です。
【講 義】入場料無料。予約不要。定員(70名)を超過次第締め切ります。
【アクセス】向電「工学部前」下車、徒歩5分。
※の方は中央図書館側ゲートへお越し下さい。坂道者がゲートを開けます。

【講 義】川崎 智 (地球惑星科学専攻) / 川崎 智 (地球惑星科学専攻) / 川崎 智 (地球惑星科学専攻)
【場 所】鹿児島大学都元キャンパス 理学部2号館2階214号室
【対 象】地震に関心のある方ほとんどなたまで大歓迎です。
【講 義】入場料無料。予約不要。定員(70名)を超過次第締め切ります。
【アクセス】向電「工学部前」下車、徒歩5分。
※の方は中央図書館側ゲートへお越し下さい。坂道者がゲートを開けます。

鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0055 鹿児島県鹿児島市都元1-1
TEL: 099-2385-7080 FAX: 099-2385-7082
E-mail: info@kaum.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学総合研究博物館 特別公開

河東碧梧桐の直筆俳句

「碧梧桐の直筆俳句」

「碧梧桐の直筆俳句」

河東碧梧桐の直筆俳句

2016年11月11日(土)～12月18日(日)

鹿児島大学総合研究博物館 入場無料

録2—」

1918(大正7)年に設置された旧制鹿児島高等農林学校指宿試験場には、さまざまな著名人が訪れ、筆を執ってサインをしています。今回第二弾として、碧梧桐の直筆俳句が添えられたものです。

(福元しげ子 〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館 Tel: 099-285-8141; fax: 099-285-7267)